



Release

フランクフルト・アム・マイン

2020年4月30日

アレクサンダー・フォン・ツァ・ミュールンがヴェルナー・スタイン ミュラーの後任としてアジア太平洋地域の CEO およびドイツ銀行の 取締役会メンバーに就任

ドイツ銀行監査役会は、アレクサンダー・フォン・ツァ・ミュールンを、8月1日付でドイツ銀行 AG の取締役会メンバーに任命しました。ミュールンは、ヴェルナー・スタインミュラーが7月31日付で取締役会メンバーを退いた後、当行のアジア太平洋地域の事業を引き継ぎます。スタインミュラーは、引き続き年末までアドバイザーの立場で当行に残ります。

監査役会会長のパウル・アッハライトナーは次のように述べています。「ヴェルナー・スタインミュラーの当行における約 30 年に及ぶ尽力により、グループの重要な分野を発展させることができました。彼が数年間責任者を務めたトランザクション・バンク、および直近ではアジア太平洋地域の事業のいずれも、当行の将来にとって重要なものとなりました。ヴェルナーの当行および顧客に対する不断の献身に感謝の意を表します。当行は彼の今後の活躍を祈っています。」

アレクサンダー・フォン・ツァ・ミュールンは、経営管理を学び、1998年に当行に入行しました。インベストメント・バンクの様々な業務を経験して、最終的に欧州債券資本市場の共同責任者を務めた後、2009年にグループの財務責任者に就任し、当行の資本、流動性および資金調達を管理しました。2017年にグローバル・キャピタル・マーケットの共同責任者に就任し、翌2018年の夏に、グループ・ストラテジー統括責任者に就任しました。彼は、2019年初頭のコムertz銀行との合併可能性の検討や、2019年夏に発表した戦略の立案において、重要な役割を果たしました。

アッハライトナーは更に次のように述べています。「アレクサンダー・フォン・ツァ・ミュールンについては、ヴェルナー・スタインミュラーの優れた後任を当行内から見出すことができました。彼は戦略立案者として、また国際的に経験を積んだキャピタル・マーケットの専門家として認められており、当行のアジア太平洋地域の事業展開や地域的戦略のさらなる推進のために必要とされるスキルや資質をすべて兼ね備えています。アレクサンダー・フォン・ツァ・ミュールンには、取締役会における新たな役職においても成功を収めることを期待しています。」

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資および資産運用の商品およびサービス、ならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在ののものであって、当行グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれる結果とは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2020年3月20日付年次報告書（Form 20-F）の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該報告書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。